

事 務 連 絡
平成26年3月5日

各都道府県・指定都市教育委員会学校保健主管課
各都道府県私立学校主管課
附属学校を置く国立大学法人事務局
各国公私立高等専門学校事務部

御中

文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課

学校における献血に触れ合う機会の受入れについて（依頼）

標記について、平成26年3月3日付け薬食血発0303第2号で厚生労働省医薬食品局血液対策課より別紙（写）のとおり、依頼がありました。

については、各都道府県教育委員会におかれては、城内の市区町村教育委員会等に対して、各都道府県私立学校主管課におかれては、所管の学校法人等に対して周知されるようお願いいたします。

(担当)

文部科学省スポーツ・青少年局
学校健康教育課保健指導係
電 話:03-5253-4111 (内線 2918)
メール:gakkoken@mext.go.jp



薬食血発0303第2号
平成26年3月3日

文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課長 殿

厚生労働省医薬食品局血液対策課長



学校における献血に触れ合う機会の受入れについて（依頼）

献血の普及啓発につきましては、日頃より格段の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、近年の献血者数は、血液事業関係者の皆様の御尽力と国民の皆様の御理解と御協力により増加傾向にあり、平成24年度は、延べ約525万人の方々に献血の御協力をいただきました。しかし、現在の高校生世代が生まれた平成8年度に約73万人あった10代の献血者数は、現在、約30万人まで減少しており、今後の少子高齢社会の進展も踏まえると、今後の輸血医療を支えていただく若年層の方々に、将来にわたって献血へ御協力いただくことが大変重要と考えております。

また、高校時代における献血体験が、その後の献血行動の動機付けになるなど、献血者の啓発に効果的であることが23年度に実施した「若年層献血意識調査」の結果として報告されております。

厚生労働省では、従来より、日本赤十字社及び都道府県と協力し、高校生等の皆さんに、献血に触れ合う機会を設けてきたところであり、今後これを一層強化していく予定です。

貴職におかれましては、かかる趣旨を御理解いただき、献血セミナーや学校献血等の献血に触れ合うための機会を、高等学校等が積極的に受け入れていただけるよう、各都道府県・指定都市教育委員会学校保健主管課、各都道府県私立学校主管課、附属学校を置く国立大学法人事務局及び各国公私立高等専門学校事務部に対し、御協力をお願いいたします。

なお、貴職からの文書発出後、当職より別添のとおり各都道府県衛生主管部（局）長宛て協力依頼通知を発出することとしております。

献血について

献血の流れ

初めて献血いただく方へ

〈血液の量、献血の量〉

人間の血液の量は、体重のだいたい13分の1と
言われています。
医学的には、人間の血液の量の12%を献血し
ても、身体に影響がないことがわかっています。

皆さまには、安全な量の献血をお願いしており
ます。

(目安)

あなたの 体重は	血液の量 (体重の12分の1)	採血可能な血液の量 (血液量の12%)
50kg	3800ml	450ml
65kg	5000ml	600ml
78kg	6000ml	720ml

献血後の身体は、血液の「量」は水分の摂取に
より短時間で回復します。

しかし、血液の成分により、回復する速さは異なり
ます。

回復する速さは、血漿成分が約2日で一番速く、
次に血小板成分が約4～5日、最後に赤血球が
約2～3週間かかります。なお、これらには個人差
があり、あくまでも目安です。

次回の献血はこれらの期間を考慮し、献血して
いただく方の安全を守るため、基準を設けており
ます。

1 献血受付



「お断りをお願ひいただき、
了解されたうえで、献血申込書に
ご記入いただきます。

問診票のご記入



献血される方の安全と健康さんが
安心して献血を受けられるよう、
献血をお申し込みいただいた方の
健康状態を確認するために、問診票に
ご記入いただきます。

・献血は、健康な方ならば、献血による身体への影響は
ほとんどありません。

・皆さまの健康を守るため、献血にはさまざまな基準
(年齢、体重、血圧、ヘモグロビン値、問診票など)があり
ます。健康状態を十分確認したうえで行いますが、寄
には体調を損ねる場合も稀です。

2 問診および血圧測定



ご記入いただいた問診票に基づいた
問診と血圧測定を行います。

ヘモグロビン等の測定、血液型の事前判定



少量の血液を採血し、貧血の心配がないか
ヘモグロビン量または血液比重の測定と
血液型の事前判定を行います。
成分献血の場合は、血小板数の測定も行います。

・針を刺したときの痛みは、すぐにやわらぎます。いつま
でも痛みが耐えたり、強い痛みがあれば、直ちにお近く
の看護婦、医師などにお知らせください。

・針や血液パックなど、献血に使用する器材は、感染を
防止するため、1回のみ使用(使い捨て)となってい
ますので、ご安心ください。

3 献血 (成分、400ml、200ml)



採血ベッドに横になり献血です。
献血用の針を刺します。
採血にかかる時間は、
400ml・200ml献血で10～15分
程度かかります。
成分献血は採血量に応じて、
40～90分程度の時間がかかります。

4 休憩



献血後は、休憩場所でのドリンクなどの
飲み物を十分におとりになり、
30分程度休憩してください。
また、トイレに行く場合は、
なるべく休憩後にお願ひします。



ジュース(スポーツドリンク)、
お茶などで十分補給してください。



乗り物を運転される場合は、
その前に十分が休憩(30分以上)
をとりください。

献血後の過ごし方について

- ・トイレ
 - ・エレベーター、階段
 - ・入浴
 - ・スポーツ
 - ・重労働
- 採血直後の排尿は座位で行ってください。
使用する際は、特に注意してください。
2時間以内の入浴と当日のサウナは避けてください。
水泳、マラソンなど激しいスポーツは避けてください。
採血側の腕に強い力がかからないようにお願いします。



献血キャラクター

けんけつちゃん

